

SPARX

2011年3月期第1四半期決算 説明会資料

2010年8月18日



スパークス・グループ株式会社

2011年3月期第1四半期の業績 と 今後の施策



2011年3月期 第1四半期決算サマリー (概要)

日本株運用ビジネスを中心に収益の回復が鈍く、コスト削減効果も一巡局面にあり、営業損失及び四半期純損失を計上。

- ▶ 営業収益： 20.4億円 (前年同期比▲8.9%)
- ▶ 営業費用・一般管理費： 22.2億円 (同▲0.6%)
- ▶ 営業損益： ▲1.7億円 (前年同期：0.08億円)
- ▶ 四半期純損失： ▲7.0億円 (同： ▲6.4億円)

- ▶ 自己資本： 165.9億円(前年度末：182.3億円)

前年度の特種要因を除けば、実質的には増収を確保

のれん償却(3.9億円)等を除く営業キャッシュフローは黒字継続



従前以上にビジネスの軸足を、「アジア/グループ力の発揮」に移し、業績回復を目指す。



2011年3月期 本決算サマリー (損益計算書)

▶ 営業収益 (20.4億円、前年同期比▲8.9%)

- 成功報酬 (4.6億円)、その他収益(2.6億円)は好調
- 残高報酬は量・率の双方で低下(13.2億円、同▲22.8%)
・・・AUM平残は6.0%減少 (6,448億円)、残高報酬料率も低下 (0.71%)

▶ 営業費用・一般管理費 (22.2億円、同▲0.6%)

- 海外子会社幹部への退職金支払等による一時的要因で高止まり。

⇒ 営業損益 ▲1.7億円 (前年同期:0.08億円)

▶ 営業外収益(1.6億円)、営業外費用(3.0億円)

- 韓国Wonの対円安が進み、為替差損発生

▶ 特別利益(0.3億円)、特別損失(2.5億円)

- 資産除去債務会計基準の適用や経営構造改革関連損失などの計上の影響

⇒ 四半期純損失 ▲7.0億円 (前年同期:▲6.4億円)



2011年3月期 第1四半期 損益計算書等の概要

	2010年3月期		2011年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	6,860	6,527	6,448	-6.0%
営業収益 (百万円)	2,246	7,893	2,047	-8.9%
営業費用・一般管理費 (百万円)	2,238	8,852	2,224	-0.6%
営業損益 (百万円)	8	-959	-176	-
経常損失 (百万円)	-194	-446	-313	-
四半期純損失 (百万円)	-641	398	-707	-
従業員数(期末) (人)	239	203	184	-22.6%
TOPIX (期末)	929.76	978.81	841.42	-9.5%



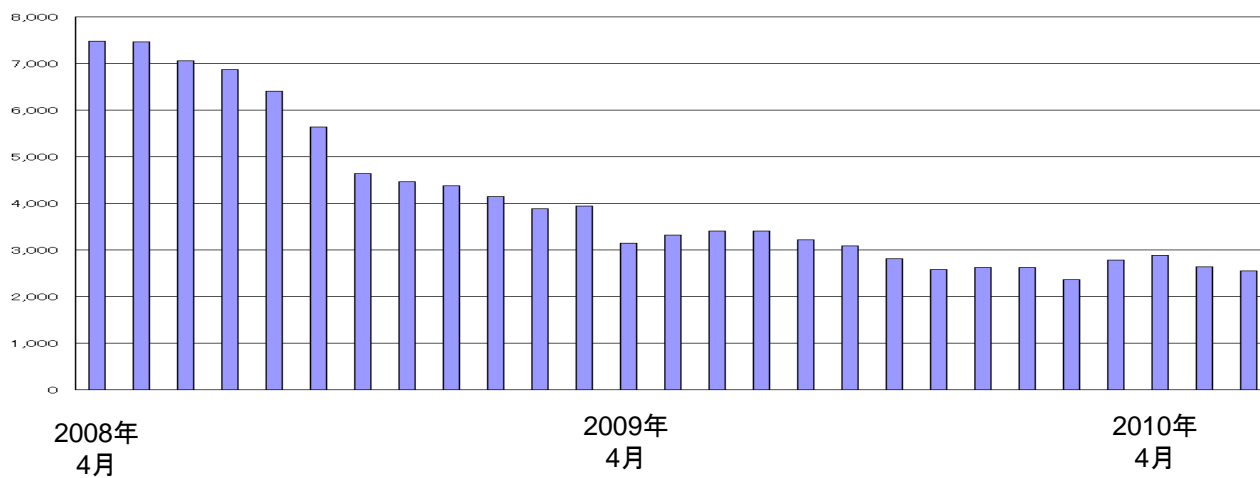
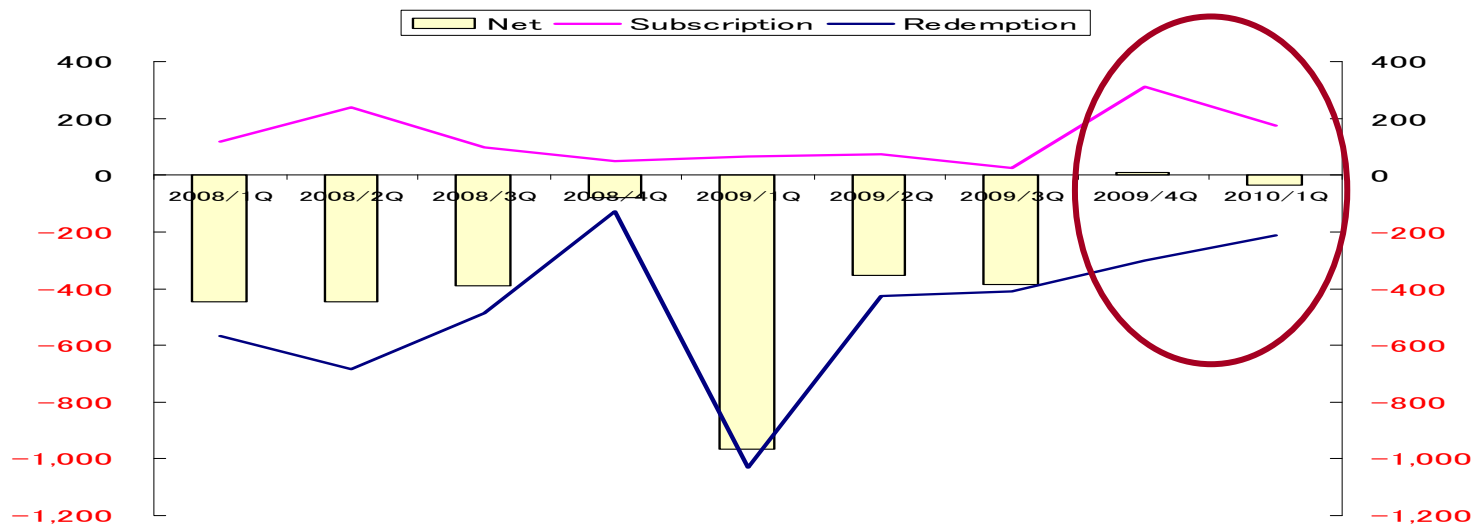
(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。

(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびPMA社の運用資産残高を含む。なお、2009年6月末の運用資産残高については、速報値をベースに算定している。

スパークス・アセット社:新規設定あるも、増加基調に到らず。

(単位:億円)



2010年7月末時点
2,547億円



スパークス・アセット社の状況

▶ Positive Side:

- 日本株運用のパフォーマンスは引き続き改善続く
- 新戦略(マルチストラテジー、スマートグリッド)の立ち上げと資金導入に成果
- スパークス証券との合併を円滑に完了、その他収入も拡大
- 大幅な人員削減後もコア・スタッフを維持

▶ Negative Side:

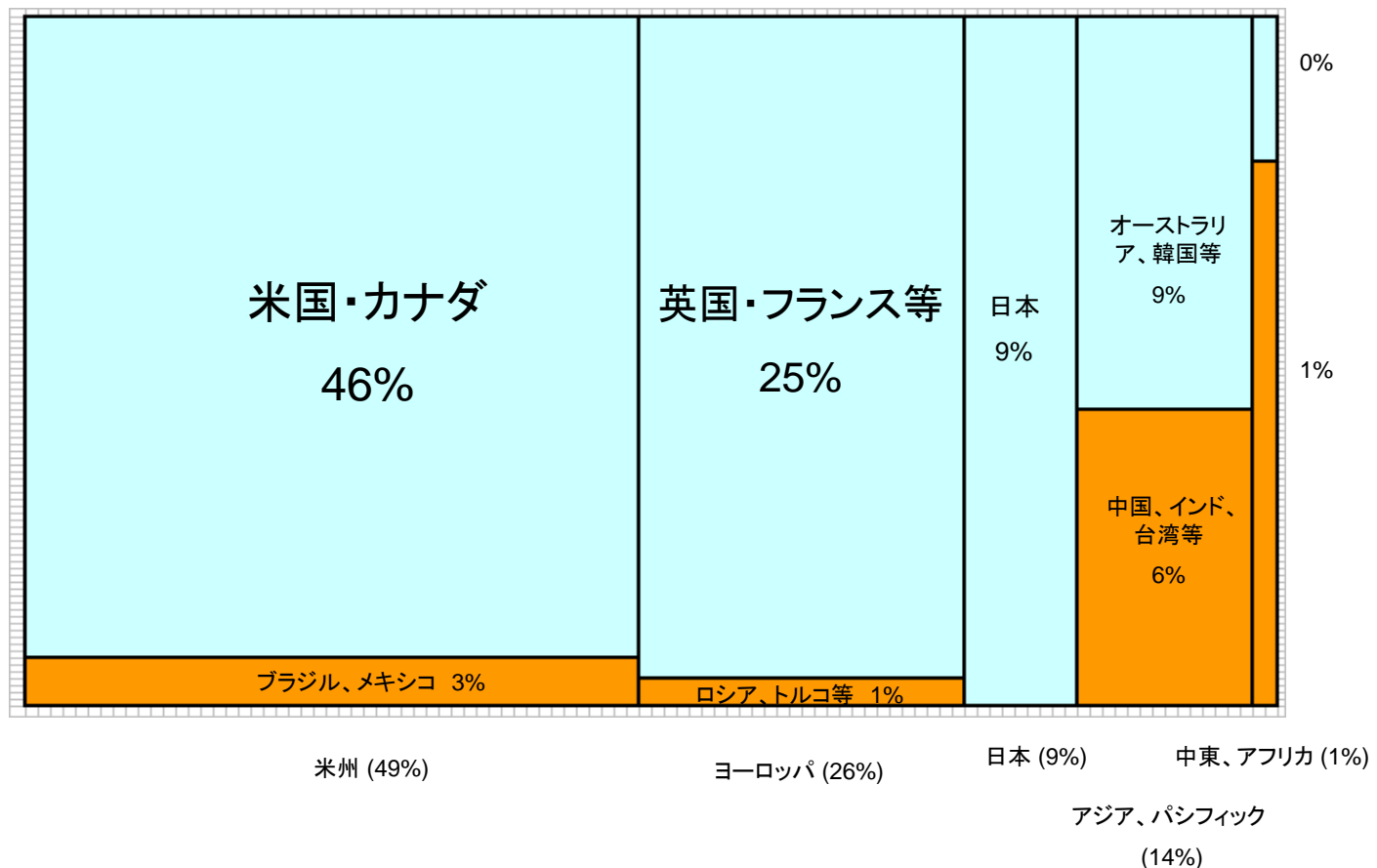
- 日本株(単独)の運用ニーズ・市場環境の低迷
- AUM(残高報酬)の回復鈍く、成功報酬の見通しも不透明
- 商品ラインナップの偏在と組織規模のミスマッチ



株式運用における日本株単独のマંデートが低迷

FTSE All-World指数のカントリーウェイト (2010年6月末)

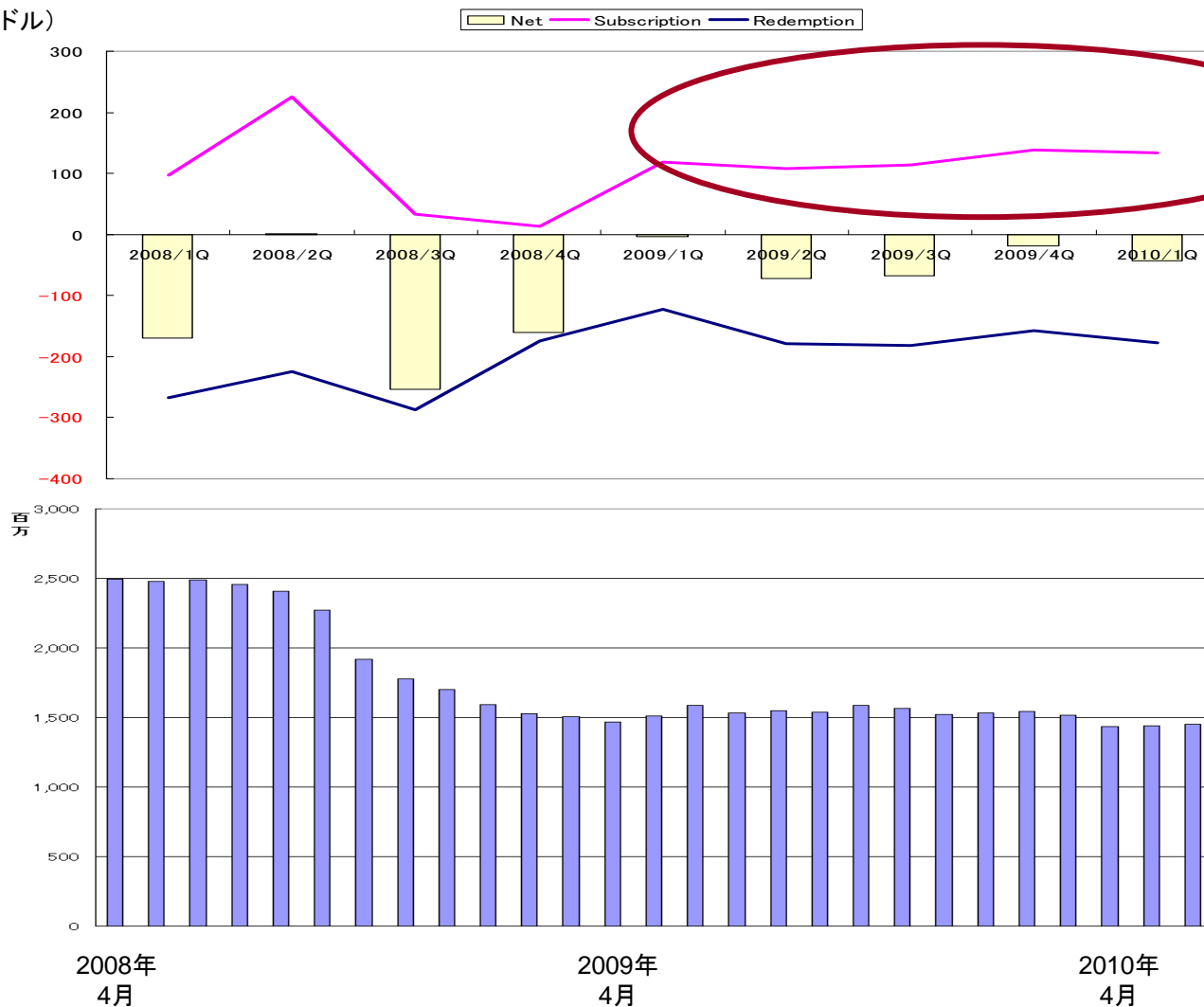
先進国 (88%)
 エマージング (12%)



(出所) Bloomberg, NRI資料

PMA社(US\$) : 新規設定も継続するが、ネット増には到らず。

(単位:百万ドル)



2010年7月末時点
1,378百万US\$



PMA社の状況

▶ Positive Side:

- マクロ系ファンドはパフォーマンス良好、日系含め資金流入続く
- クレジット系ファンドも存在感を維持
- 既存ビジネスから派生したその他収益が拡大
- Dubaiオフィスの閉鎖等、経営スリム化を推進
- Fund Operationの品質に対しては高い評価(SAS70)

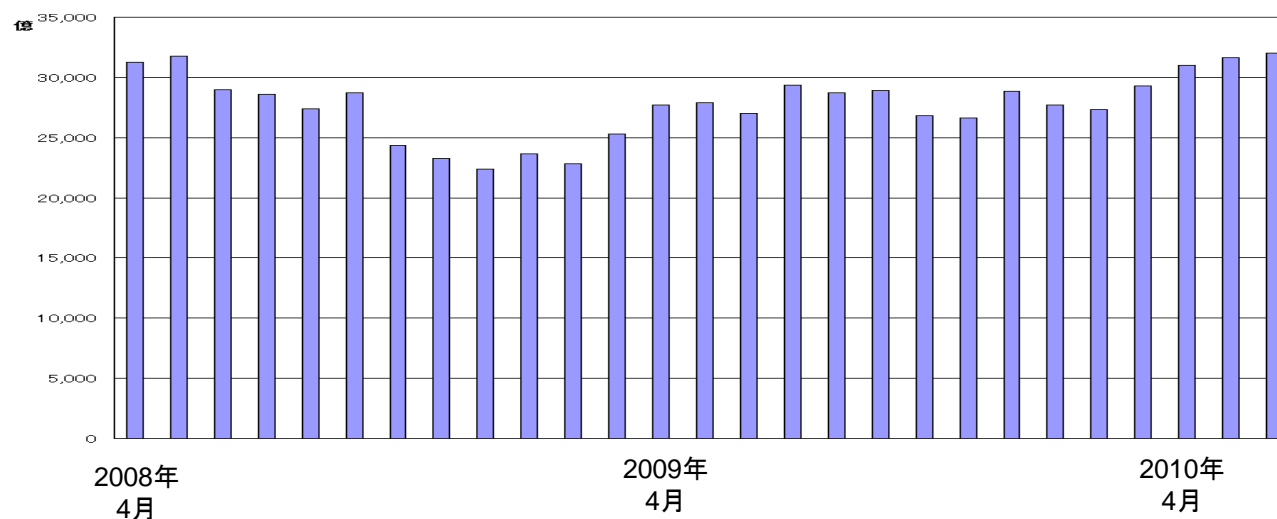
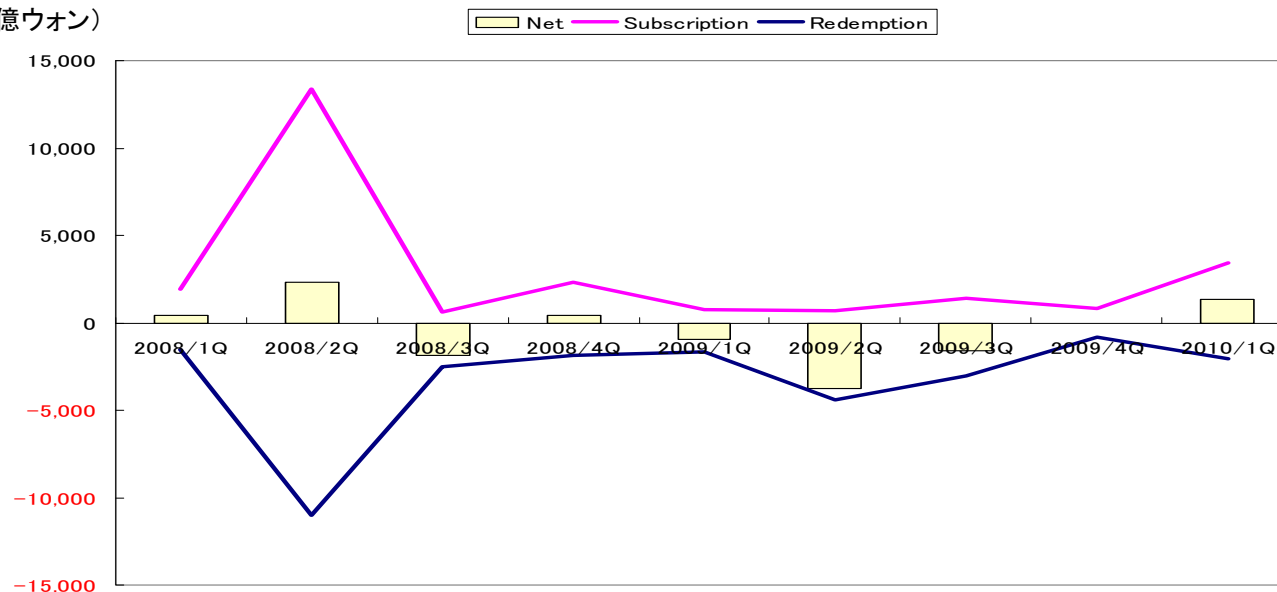
▶ Negative Side:

- エクイティ系ファンドは低迷が続く
- 解約をカバーする設定額に至らない(大型の新規設定案件が乏しい)



コスモ社(KRW) : AUM残高はピーク更新

(単位: 億ウォン)



2010年7月末時点
31,473億KRW



コスモ社の状況

▶ Positive Side:

- 優れた運用成績と顧客からの高い評価
- AUM残高のピーク更新
- 個人富裕層対象のビジネス拡大
- 投信ライセンスの取得含め規制環境が好転
- 経営トップ(CEO/CIO)の円滑な移行



Lotteグループとの
協業の可能性拡大

▶ Negative Side:

- 顧客基盤における韓国国内への依存度の高さ
- 商品ラインナップの偏り



再成長への軸足・・・ASIA & グループカの発揮

<グループカの再認識>

- ▶ アジア三地域(日本 / 香港 / 韓国)に一定の実績と規模を有する運用拠点。
 - ・・・グループ内で最も若いPMA社でも、8年以上の運用実績。
- ▶ 独立系 であり、透明性ある経営形態
 - ・・・運用会社の巨大化・系列化が進む中で、中立性を維持。
 - ・・・公開(上場)企業として、経営規律を維持し、透明性を確保。
- ▶ 多様な顧客基盤
 - ・・・各社が構築してきたグローバルベースの多様な顧客とブランド。



顧客の期待に十分応え得る商品／サービスを提供可能な基盤。

⇔ (これまでは環境の激変下で個社毎の経営立直しに傾注、
今後は、グループの強みを再結集してビジネス展開に取り組む)



再成長への軸足・・・その施策

▶ Research (⇒存立基盤の再確認)

- ・・・我々のCore CompetenceであるBottom Up Researchを日本/韓国からアジア全域に拡大、進化させる。(グループワイドな人材活用)
- ・・・マクロビューについてもグループ各社の知見を活用、共有

▶ Products (⇒グループ共通の”FLAG SHIP FUND”への挑戦)

- ・・・KOREA/JAPAN Long/Short ⇒ 汎ASIA Long/Short
- ・・・Asia Multi Strategy (汎ASIA Macro、アジアCredit、日本株、韓国株・・・)

▶ Marketing (⇒業績回復に向けて短期間での成果が必要)

- ・・・各社の持つ顧客基盤に対するグループとしてアプローチ
- ・・・MarketingにおけるToolやStyleの共通化

▶ Operation (⇒会社/国境を超えての業務効率化)

- ・・・Offshore FundのAdministrationの共通化 ⇒ PB、Custodian
- ・・・”Best Practice”をグループ内で共有



営業収益内訳・成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳		2010年3月期		2011年3月期	
		第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
残高報酬	(百万円)	1,710	6,012	1,320	-22.8%
料率(手数料控除後)	(%)	0.85%	0.79%	0.71%	-0.14
営業投資有価証券売買損益	(百万円)	427	442	-	-
その他営業収益	(百万円)	43	631	263	506.5%
営業収益 合計	(百万円)	2,246	7,893	2,047	-8.9%
成功報酬付AUM比率		2010年3月期		2011年3月期	
		第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
スパークス・アセット社	残高(億円)	1,593	1,203	1,114	-30.1%
	比率(%)	46.7%	43.1%	43.8%	-2.9
COSMO社	残高(億円)	1,842	2,037	1,930	4.8%
	比率(%)	90.0%	84.2%	83.3%	-6.8
PMA社	残高(億円)	1,178	918	761	-35.4%
	比率(%)	77.1%	64.9%	59.3%	-17.7
合計	残高(億円)	4,614	4,159	3,807	-17.5%
	比率(%)	66.1%	62.8%	61.9%	-4.1



(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」「対前年度比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前年同期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(ネット・ベース) = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

(注3) 2010年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2010年3月期		2011年3月期	
		第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
		内、賞与 30百万円		内、賞与等 493百万円	
支払手数料	営業費用	258	960	171	-33.8%
人件費	一般管理費	734	3,379	1,064	44.8%
委託計算費	営業費用	49	127	17	-64.6%
旅費交通費	一般管理費	62	219	61	-1.8%
不動産賃借料	一般管理費	217	732	125	-42.1%
事務委託費	一般管理費	204	646	122	-40.0%
減価償却費	一般管理費	55	202	40	-26.9%
その他	一般管理費	313	1,062	229	-26.7%
のれん償却額	一般管理費	342	1,522	391	14.3%
営業費用・一般管理費 合計		2,238	8,852	2,224	-0.6%

経常的経費 (年換算) 46.7億円
 55.4億円



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

(注3) 「負ののれん償却額」として、28百万円(2010年3月期第1四半期)、24百万円(2011年3月期第1四半期)が営業外収益に計上されている。

基礎収益力

残高報酬(手数料控除後) VS 経常的(固定的)経費

		2010年3月期	2011年3月期1Q
		通期	(年換算ベース)
AUM平残	(億円)	6,527	6,448
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.79	0.71
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	5,135	4,578
経常的経費	(百万円)	5,543	4,674
基礎収益	(百万円)	▲408	▲95



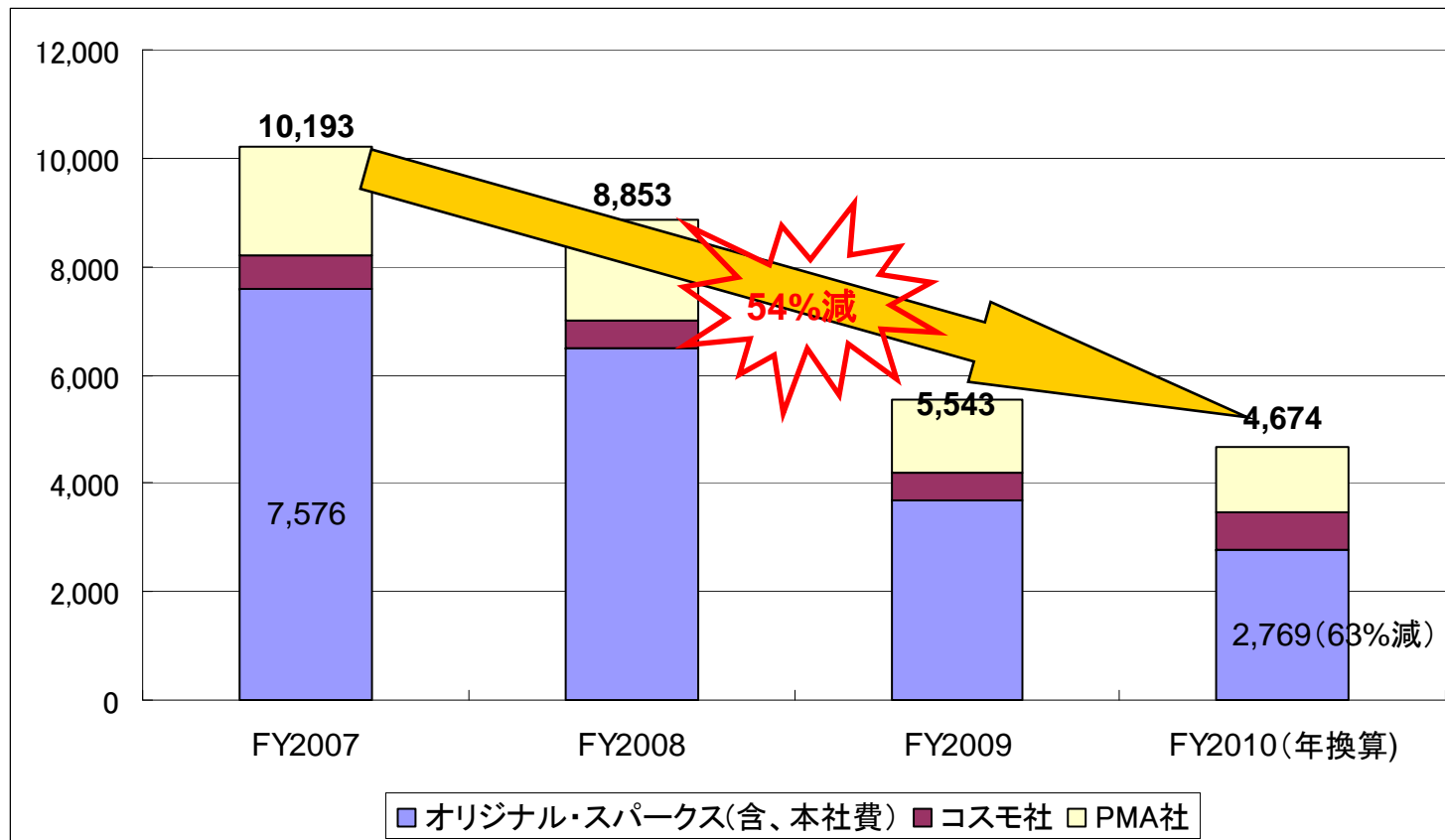
(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

(注3) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。

コスト改善への取り組み

(単位: 百万円)



2011年3月期本決算サマリー (貸借対照表)

▶資産の部 (338.5億円、前期末: 367.7億円)

- 現預金残高(132.4億円、前期末比▲20.2億円)
- 前渡金(16.5億円)・・・コスモ社役職員からのコスモ株式買入
- 投資有価証券(88.0億円)・・・主にグループ各社が運用するファンドへのシードマネー

▶負債の部(147.3億円、同:156.8億円)

- 一年以内返済長期借入金(30.0億円)、長期借入金(50.0億円)、社債(50.0億円)

▶純資産の部(191.1億円、同:210.8億円・・・19.7億円の減少)

- 純損失(▲7.0億円)に加え評価・換算差額等の減少(前期末比▲9.5億円)が主要因。
・・・コスモ社連結に際しての、韓国Wonの急激な対円安(0.0826⇒0.0724)が影響。



流動性も含め、BSの健全性は十分に確保されている。



2010年6月末時点 貸借対照表概要

(単位:百万円)	2010年3月末	2010年6月末	前期末比
流動資産	19,090	17,171	-10.1%
うち、現預金	15,270	13,241	-13.3%
うち、有価証券	726	110	-84.9%
固定資産	17,684	16,679	-5.7%
うち、のれん	7,623	7,257	-4.8%
うち、投資有価証券	9,254	8,802	-4.9%
(資産の部 合計)	36,774	33,850	-8.0%
一年以内返済長期借入金	3,000	3,000	0.0%
社債	5,000	5,000	0.0%
長期借入金	5,000	5,000	0.0%
(負債の部 合計)	15,689	14,732	-6.1%
資本金・資本剰余金	26,696	26,713	0.1%
利益剰余金	-3,868	-4,576	-
自己株式	-4,438	-4,438	-
少数株主持分	2,715	2,418	-11.0%
(純資産の部 合計)	21,084	19,117	-9.3%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 投資有価証券は、当社の運用ファンドへのシードマネーを含む。

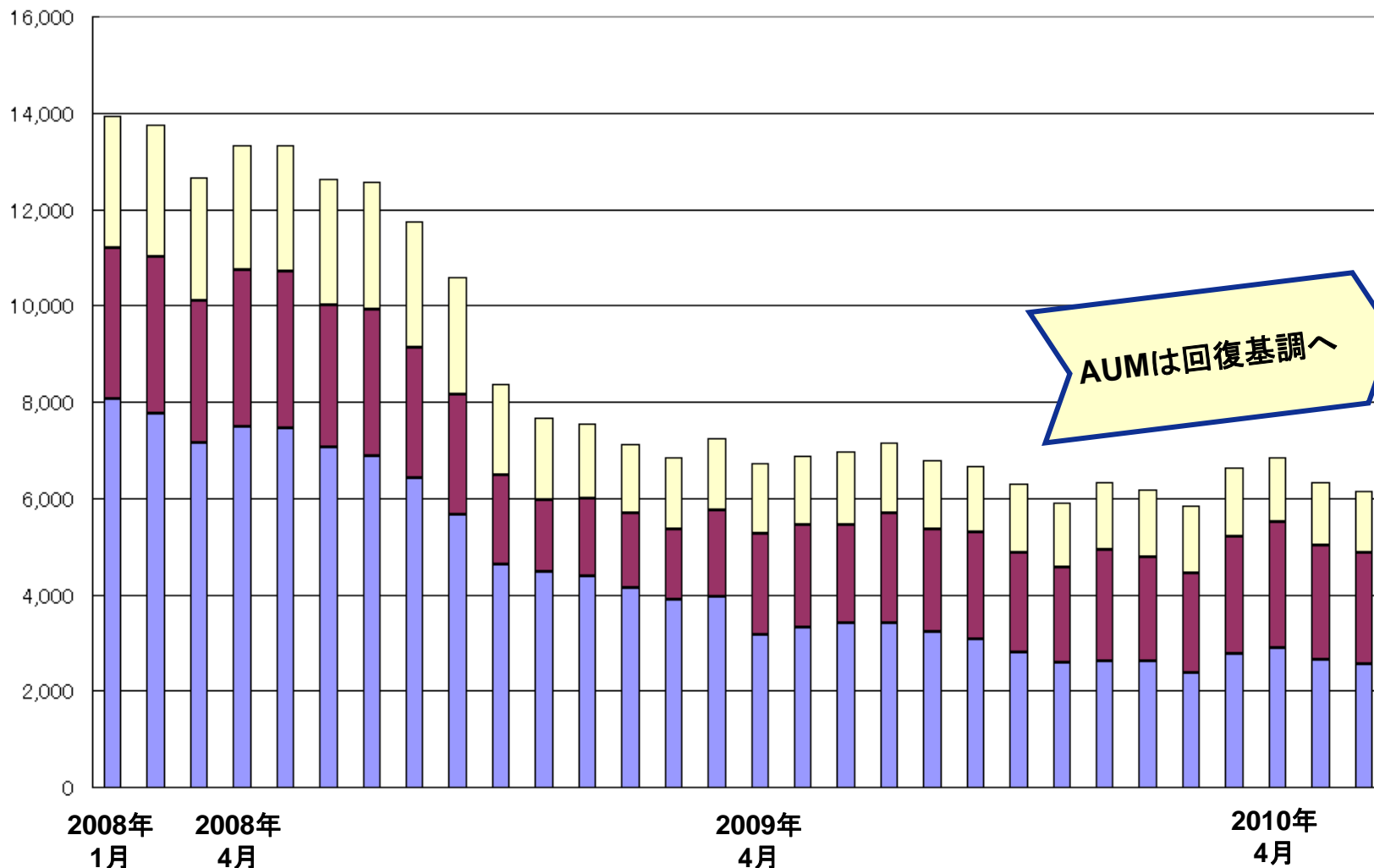
参考資料



AUMはボトムアウト。今後、増加トレンドとなるかがポイント

(単位: 億円)

■ SPARX ■ Cosmo ■ PMA



運用資産残高の増減(2010年3月末～2010年6月末)

事業主体別	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	(単位: 億円) 2010年6月末
	スパークス・アセット 社	2,783	176	-210	-34	-203
COSMO社	2,419	264	-159	104	-204	2,319
PMA社	1,415	121	-160	-39	-92	1,284
当社グループ全体	6,618	562	-531	31	-500	6,148



(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2010年6月末の換算レートによる差額分が含まれている。

(注3) 2010年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

各社別運用資産残高の増減(2010年3月末～2010年6月末)

(単位:億円)

スパークス・アセット社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年6月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	759	27	-60	-33	-24	702
日本株式集中投資戦略	205	12	-27	-15	-26	163
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	173	0	0	0	-10	163
日本株式一般投資戦略	339	4	-13	-9	-39	291
日本株式中小型投資戦略	1,253	21	-64	-42	-104	1,106
その他	51	110	-45	65	1	118
合計	2,783	176	-210	-34	-203	2,545

COSMO社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年6月末
韓国株式インデックス運用戦略	1,622	96	-14	81	-151	1,552
韓国株式一般投資戦略	407	167	-120	47	-39	415
韓国株式ロング・ショート投資戦略	162	0	-24	-24	1	139
韓国株式集中投資戦略	120	0	0	0	-4	116
その他	104	0	0	0	-10	94
合計	2,419	264	-159	104	-204	2,319

PMA社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年6月末
アジア株式投資戦略	386	1	-31	-29	-33	324
アジア・欧州債券投資戦略	582	12	-106	-94	-43	444
アジア・マクロ投資戦略	153	19	-2	16	-13	157
その他	292	87	-20	67	-2	357
合計	1,415	121	-160	-39	-92	1,284



- (注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。
(注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2010年6月末の換算レートによる差額分が含まれている。
(注3) 2010年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2010年6月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	6.48%	1.78%	12.97%	2.43%	3.14%
参考インデックス値	-2.89%	-0.63%	-1.26%	-4.51%	-3.45%
超過リターン	9.37%	2.41%	14.23%	6.94%	6.59%

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株ス タイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	1997年5月	2000年1月	1997年8月	2000年6月	1999年7月
コンポジット・リターン のポラリティ(年率)	23.64%	18.56%	11.23%	6.74%	21.36%

(注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

(出所) スパークス・グループ (2010年6月末現在)



スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

1. 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、PMA社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
2. 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略

3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
日本株式一般(合同口)	60.69%	-14.57%	-28.93%	-34.48%	34.27%
日本株式中小型	44.34%	-11.86%	-28.95%	-25.64%	33.32%
日本株式L/S(ドル建、Lev2)	27.95%	-3.74%	-14.43%	5.95%	8.77%
日本株式L/S(円建、Lev1)	18.68%	-7.50%	-11.31%	-4.13%	6.03%
日本株式集中投資	48.94%	-18.71%	-10.14%	-25.67%	23.14%

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のものです)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(スパークス・グループ株式会社の100%子会社)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社、SPARX Overseas Ltd.、及び SPARX International (Hong Kong) Limitedで構成されます。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー16F

Tel: 03-5437-9700 (代)